

尺と別れをうらうらと
ケルまゝなるのかうら
時の位お林檎を
光りと赤うと米を人か
有うと思ふ折よしと
御世で筆を
作て送てくれと
思ふは山かアッ
プルほしくうと
嫌しうつ
たさて尺の日本
汁向もあうく
尺のせう内でも
思ふ大
きなるいふ
ある一つで
なうと思ふ
誰じも思ふ
たり云ふ
たり位
近はお米が
実行と成ると
ふさなる
アでも中し
なるもの
夫れを
あれだけの
事をする
又お米
する人が
何人
あるか
しう位
の大き
なる事
か私を
思ふ
と
倉く
良い
事考し
たね
一中心
から
好こ
さるる
よ
其位
皆
校
如
老
せ
外
一
同
事
せ
え
や
て
な
る
ま
よ
し
日本
の
戦
を
止
め
し
た
ら
は
成
る
の
の
中
は
は
戦
年
校
の
校
長
者
も
印
山
ある
か
戦
年
さ
へ
な
う
た
ら
と
忘
れ
る
ア
の
お
米
ぬ
痛
手
と
泣
い
た
る
者
を
多
数
と
さ
る
位
と
思
ふ
何
年
也
ご
と
ら
忘
れ
ら
れ
る
位
と
成
る
か
多
か
永
く
決
入
ぬ
であらう
と
若し
決
入
し
ても
歴
史
で
も
用
て
足
ね

げ、云ふは、掛りもせり、
馬鹿な

と、し、た、よ、い、す、あ、ま、れ、た、操、り、言、い、て、け、れ、ど

さて又日本人の多き者の社界を、
減、の、言、ひ、の、坊、か

事は、弊も働くと、嫌、い、何、し、と、不、快、を、感、ず、て、行、く

の、人、向、し、て、の、価、値、あ、る、と、思、ひ、な、る、故、で、徹者

を、い、す、う、二、も、人、口、過、剩、が、と、せ、ら、ば、各、人、島、へ、い、で、も

行、つ、た、ら、如、云、ふ、校、を、い、う、ふ、て、嫌、を、れ、て、な、る、が、で

す、私、が、革、作、り、で、し、て、な、る、と、ま、あ、い、お、偉、い、事、で

す、や、と、笑、め、る、の、や、ら、笑、ふ、の、や、ら、景、七、集、の、を、人

が、へ、ビ、ー、ウ、オ、ー、ク、お、米、と、は、と、ん、る、向、は、あ、ら、う、が、大

本、も、働、く、と、云、ふ、こ、と、を、空、視、す、校、で、一、七、の、傾、向、は、必

ず、的、に、困、つ、た、事、だ、と、憂、ふ、者、が、す、い、て、一、七、の、重

この、お、お、忍、の、ま、へ、日、本、の、身、身、が、危、か、け、と、行、く、の

で、一、七、の、農、業、術、を、勿、論、さ、る、も、景、重、景、は、働、く、ア、の

弊、と、善、は、又、幸、福、だ、あ、る、一、と、実、際、と、示、し、て、叩、き

1954-11.16 大

込んで下さる事が最大にある事と思ふ者で
す。私を何一つ取り柄のない空っぽの人間と見做す方が只一つ
の事、例い仕込まれ働かす事を嫌むぬのが大さふ幸福
だと思ふ所です。先頃老人会あるものか私をも招入れてくれ
ました。其内でも私がオの伊集原君と云ふアでよい私の所持
力を全部没収の上で上られ完全フルペンと云ふ者でマ
が豆だけも残つて居ます。夫れで
ればせよられる。居して呑みまゝにして居ます。から
クリスマスは近々もう日本では再びカード大流行おしとかが
が七十歳を越してして世間的には船れぬアしと
ぬ失礼するであらうがどうぞ

モリ、ア、困入の松ふ長たる。世界アを叩きま
がカードでも折は下さい。カはなれば一寸舞へ行
きまとも思ふ。けれどでも又松松
法まけく

武田昌二
千枝 殿

小林 正